

原小学校

【教科】総合的な学習の時間

【学年】第3学年

【育成を目指す資質・能力】思考力・判断力・表現力 等

単元名

原のくらしからまなぼう

～お世話になった人に感謝の気持ちを伝えよう～

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

- ・ お米について、観察したり調べたりする活動を通して、自ら課題を発見し、興味を持ったことを追求する。
- ・ 稲刈りなどの体験活動を通して、地域のお米を育てている人の苦労や願いを知り、地域に愛着を持ち、自分達にできることを考える。
- ・ 1学期から学習してきたことをもとに、地域で育ててきたお米や地域の方に再度目を向け、自分たちにできることを考えて実践する。

【連携諸機関・人物】

活動の概要

お米について家族や地域の人にインタビューしたり、本やタブレットなどを使って調べ学習を行ったりした。地域の方の田んぼをお借りして、米作りに挑戦した。田植え、ひえ引き、稲刈り、脱穀、精米など地域の方と一緒に様々な活動を行った。たくさんお世話になった地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、保護者・教職員などを対象にお米を販売し、その売り上げで感謝の品を渡した。

★アピールポイント★

- ・ 活動の特色 ・ 授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・ 地域人材、財産等の活用
- ・ 児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・ 他教科等との関連 ・ ICTの効果的な活用 等

・ 地域の方の協力がとても厚く、子ども達がたくさんの体験をすることができた。

・ 「地域の方に感謝の気持ちを伝えたい」という思いをどうすれば実現できるのか、何度も話し合いを重ねる場を設けた。「感謝のお花を贈りたい。だけど自分達にお金はない。」「やっぱり無理か。」とあきらめかけていた時、ある児童が、「自分たちが作ったお米を売ればいいじゃん！売ったお金でお花を買おう！」と叫んだところ

から学習は深まった。いつ、どこで、誰に売るのが考え、販売する場を自分たちで考えた。お米の金額や名前も全然検討がつかなかったが、実際にスーパーで調べたり親にインタビューしたりして、販売することが

できた。コロナ禍でみんなが集まっていた活動ができなかった時には、タブレットを用いてオンラインで各自宅から話し合いをした。ってふりかえりを行い、改善するべきところを話し合った。そしてもう一度計画を練り直し、第2弾では100キロ以上のお米を販売することができた。



児童生徒の姿 (○)、振り返り (◇)

○「感謝の気持ちを伝えるための花束を買いたい」というゴールに向かって、子ども達が協力して取り組んでいた。困ったことがあったら家族や先生にインタビューしたり、タブレットを使って調べたりするなど、自分たちで目標を達成しようとする姿が多く見られた。

◇自分たちが育てたお米をたくさんの人に食べてもらうことができ嬉しかった。原のお米を、原に住んでいない人にもっと知ってもらいたい。